伯耆町スポーツ推進計画

平成２６年４月

伯　　耆　　町
伯耆町教育委員会

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆　　目　次　　◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

第１章　伯耆町スポーツ推進計画の基本的な考え方　・・・・・・・・・・・・ 3

Ⅰ　計画の背景と主旨　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

Ⅱ　計画の位置付け　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

Ⅲ　計画期間　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第２章　計画の方向性　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

Ⅰ　目指す町の姿　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

Ⅱ　基本方針　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第３章　計画推進のための施策　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

Ⅰ　生活の中にスポーツがある暮らしの支援　・・・・・・・・・・・・・・ 7

１．幼児・子どものスポーツ活動の推進　・・・・・・・・・・・・・・・ 7

①多様な動きを経験できる取組の充実　・・・・・・・・・・・・・・・ 8

②生活調査及び体力測定の実施と利活用　・・・・・・・・・・・・・・ 8

③指導者の育成等の支援　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

④子どもや保護者への啓発や情報提供の充実　・・・・・・・・・・・ 9

２．小中学生のスポーツ活動の推進　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

①体育授業等の充実　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

②適切な運動・正しい生活習慣の定着　・・・・・・・・・・・・・・・ 12

③運動部活動等の充実　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

④複数スポーツ活動の奨励　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

⑤部活動等のあり方や参加形態の多様化の検討　・・・・・・・・・・ 12

⑥子どもたちの実態を踏まえた活動計画の作成　・・・・・・・・・・ 12

⑦町内学校スポーツ交流　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

⑧スポーツ関係団体・指導者と小中学校との連携支援　・・・・・・ 13

⑨スポーツボランティア（補助者）の活用検討　・・・・・・・・・・ 13

⑩事故防止　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

３．ライフステージに応じたスポーツ活動の推進　・・・・・・・・・・ 14

①スポーツ教室等の充実　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

②手軽にできるスポーツ・レクリエーション等の検討　・・・・・・ 15

③職場における運動の実施の推奨　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

④指導者の発掘・養成・連携と活用支援 ・・・・・・・・・・・・・ 15
⑤障がい者スポーツ活動支援の検討 ・・・・・・・・・・・・・・・ 16
⑥スポーツ・健康に関する啓発・情報提供の充実 ・・・・・・・・ 16
⑦事故防止 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
Ⅱ　いつでも気軽にスポーツができる環境の整備 ・・・・・・・・・・ 17
１．スポーツ団体等の活動支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
①スポーツ団体等の活性化支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
②スポーツ団体等の指導者・スタッフの育成支援 ・・・・・・・・ 18
③スポーツ団体等の連携支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
④スマイリースポーツクラブとスポーツ団体等の連携支援 ・・・ 18
⑤スポーツ団体等と行政の連携強化 ・・・・・・・・・・・・・・・ 18
⑥スポーツ推進委員活動の支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
⑦行政関係部門の連携の強化・充実 ・・・・・・・・・・・・・・・ 18
２．公共体育施設等の充実 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
①体育施設の改修等の推進 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
②空き公共施設の活用の検討 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
③効果的かつ効率的な施設運営体制の検討 ・・・・・・・・・・・・ 19
Ⅲ　スポーツでつながり広がる交流・連携の推進 ・・・・・・・・・・ 21
１．スポーツ交流の充実・支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
①スポーツ大会等への住民ニーズの反映等による充実 ・・・・・・ 22
②優秀な指導者を確保するための制度の検討 ・・・・・・・・・・・ 22
③スポーツボランティア制度（大会スタッフ等）の検討 ・・・・・ 23
④住民企画運営スポーツ大会等への支援 ・・・・・・・・・・・・・ 23
⑤障がい者が参加できるスポーツ大会等の検討 ・・・・・・・・・ 23
⑥スポーツ交流等による町おこしの検討 ・・・・・・・・・・・・・ 23
２．競技スポーツの支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
①指導者の育成支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
②スポーツ優秀選手支援制度の検討 ・・・・・・・・・・・・・・・ 24
③スポーツ優秀選手・ボランティア等への顕彰制度の検討 ・・・ 25
④町のスポーツの検討 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
⑤競技スポーツ等の広報の充実 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
資料１　計画の体系 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
資料２　伯耆町スポーツ推進審議会 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

第１章　伯耆町スポーツ推進計画の基本的な考え方

Ⅰ　計画の背景と主旨

スポーツは、人生をより豊かで充実したものにするとともに、人間の身体的・精神的な欲求を満足させる世界共通の文化の一つです。心身の両面に影響を与える文化としてのスポーツは、明るく豊かで活力に満ちた社会形成や心身の健全な発達に必要不可欠なものであり、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことは、次のように極めて大きな意義を有しています。

①　体を動かすという人間の本源的な欲求を満たす。

②　快感、達成感、他者との連帯感等の精神的な充足や楽しさ、喜びをもたらす。

③　健康の保持増進や体力の向上に役立つ。

④　精神的なストレスの発散ができる。

⑤　生活習慣病予防につながる。

⑥　少年の心身の健全な発達を促す。

⑦　地域における連帯感を醸成する。

⑧　心身両面にわたる健康の保持増進に大きく貢献し、医療費の節減や効果が期待される。

このように多様な意義を有する文化としてスポーツは、現代社会に生きる全ての人々にとって欠くことのできないものとなっており、一人ひとりが自らスポーツを行うことにより、心身ともに健康で活力ある生活の形成が期待されています。

本町においては、これまでスポーツに関する総合的な計画は策定されておらず、町総合計画、教育振興計画、健康づくり計画、高齢者福祉計画、障がい者福祉計画など、担当部門ごとにそれぞれが関係する分野の対象者について、計画の一部にスポーツ・健康についての取り組み等を示しているのみでした。

しかながら、近年の急激な社会変化、人々のライフスタイルの多様化、少子高齢化の進行等により、スポーツや健康に対する意識・ニーズは大きく変化し、スポーツに関する町の取り組みも変化への対応が求められています。

国では、平成 23 年にスポーツ振興法を全面改訂し「スポーツ基本法」とするとともに、翌年にはスポーツ基本計画を策定しました。

そこで、本町では、国・県の計画を参考に、スポーツを通じて住民誰もが心身とも健康で明るく豊かな人生をおくるとともに活力ある地域づくりに寄与できるよう、スポーツに関する総合的な計画として「伯耆町スポーツ推進計画」を策定し、伯耆町総合計画及び伯耆町教育振興基本計画の実現を図ります。

Ⅱ　計画の位置付け

本計画は、スポーツ基本法に基づく伯耆町のスポーツ推進に関する計画です。国の「スポーツ基本計画(平成 24 年 3 月策定)」及び「鳥取県スポーツ振興計画(平成 21 年 3 月策定)」を参考に、伯耆町のスポーツに関する現状や課題に向けた計画として策定するものです。

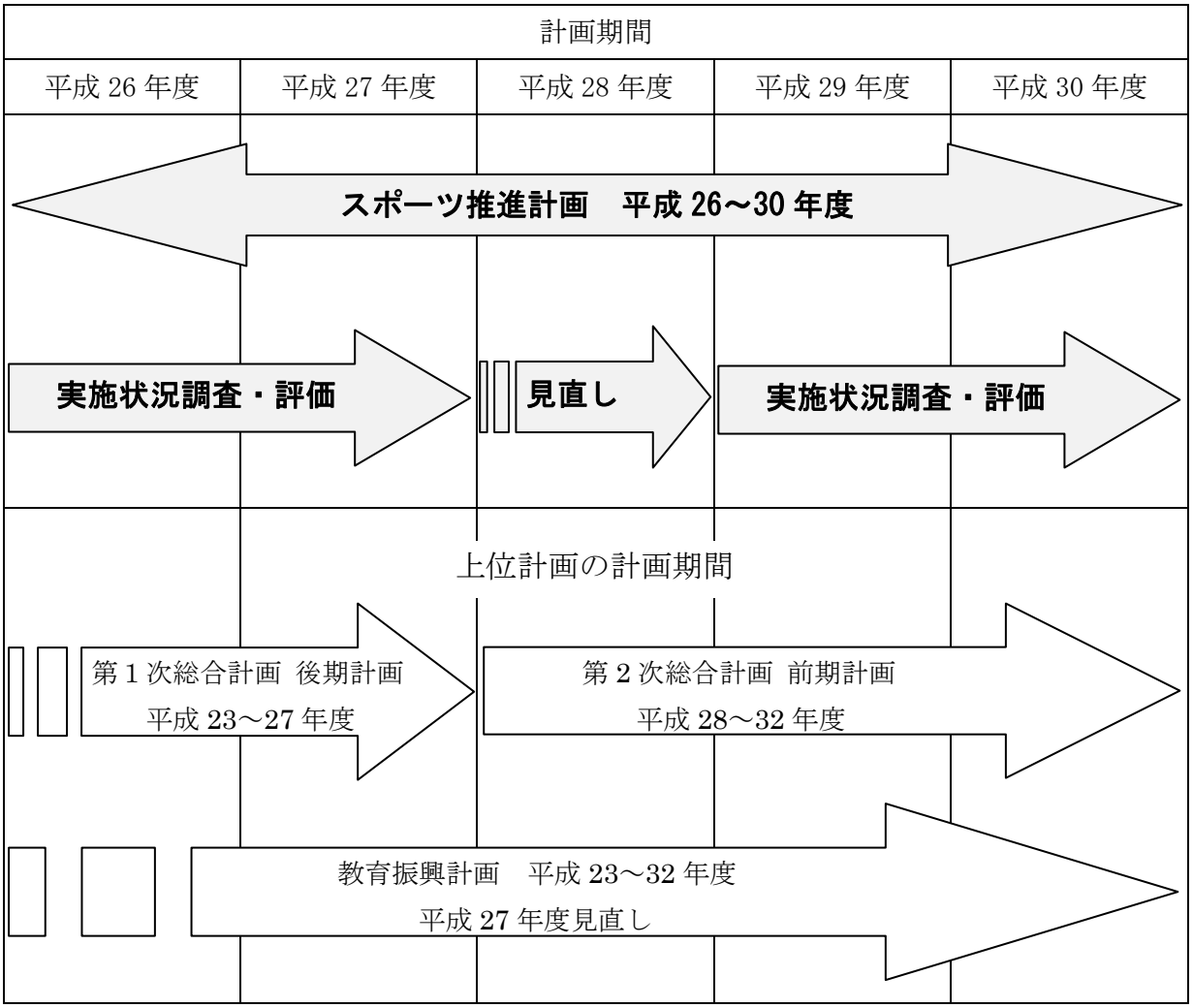
本計画は、伯耆町総合計画及び伯耆町教育振興基本計画のスポーツに関する施策をより具体化するための計画として位置付けます。

Ⅲ　計画の期間

本計画の計画期間は、平成 26 年度から平成 30 年度までの 5 年間とします。

また、施策・事業の進行管理を行うとともに、平成 28 年度に中間評価を行い、必要に応じて計画を変更します。

■計画期間及び進行管理イメージ



第２章　計画の方向性

Ⅰ　目指す町の姿

本町の総合計画では、町の将来像を「森と光が織りなすうるおいのまち　共生と交流の伯耆町　～誇りと愛着のもてるまちづくり～」と定め、この実現に向けて、次の５つの基本方針に沿って様々な取り組みを実施しています。

□伯耆町総合計画におけるまちづくりの基本方針

① 住みよさを感じるまち（生活環境、生活基盤）
② 地域産業を育むまち（農林業、商工観光）
③ 豊かな心が育つまち（教育、人権、文化）
④ 健康で安心して暮らせるまち（保健福祉）
⑤ 住民と行政による協働のまち（コミュニティ、行財政）

また、町の教育振興計画においても、総合計画の基本方針を踏まえ「豊かな心が育つまち」を基本目標としているところです。

本計画は、総合計画及び教育振興計画のスポーツに関する施策を、具体化することを目的としていますので、目指す町の姿も上位計画の「豊かな心が育つまち」に沿ったものとしますが、本計画の内容は、総合計画の保健福祉部門の「健康で安心して暮らせるまち」とも大きく関係するものであり、相互の連携・協力が必要不可欠です。
このような本計画の特性を踏まえ、目指す町の姿を次のとおり設定します。

○豊かな心が育つまち

子ども、お年寄り、障がいのある人も誰もが、お互いに助け合い尊重しながら和気あいあいとスポーツを楽しんで、人の輪がどんどん広がり、町の人みんながひとつになれる、そんな豊かな心が育つまちを目指します。

○健康で安心して暮らせるまち

住民みんなが、子どもの頃からお年寄りになるまで長くスポーツに親しみ、心も体も健康で、町を歩けば出会う人みんなが笑顔であいさつを交わす、そんな健康で安心して暮らせるまちを目指します。

Ⅱ　基本方針

スポーツや運動が、心や体の健康に寄与することや、人と人とのつながり・地域の一体感や活力を醸成することは、多くの人が理解しているところです。

しかし、全ての人が、スポーツを日常的に生活に取り入れているわけではありません。目指す町の姿を実現するためには、スポーツと出会うきっかけづくりや、それぞれの人に応じたサポートを継続的にできる体制が必要です。

また、スポーツを見る、応援する、或いはスポーツイベントなどにボランティアとして関わることもスポーツへの参加の方法のひとつです。住民が様々な形でスポーツに関わることができるよう、ライフスタイルやライフステージ応じた支援や方策が必要です。

住民みんなが、生涯にわたってスポーツに親しんで、スポーツを通じて交流を促進し、地域の活性化につなげることで、目指す町の姿が実現できるよう、次の基本方針に基づき取り組みを推進します。

〇生活の中にスポーツがある暮らしの支援

住民誰もがスポーツや運動に親しみ・楽しむことができるよう、多様なスポーツとの出会いの場の提供や一人ひとりに応じたスポーツの指導体制の充実など、スポーツを生活の中で身近なものにします。

〇いつでも気軽にスポーツができる環境の整備

スポーツや運動がしたくなった時に気軽に出来るよう、スポーツクラブ等の活動・連携の支援や体育施設の充実など、日常的・継続的にスポーツ活動ができる環境を整備します。

〇スポーツでつながり広がる交流・連携の推進

スポーツによる交流、スポーツ大会への住民参画や、より高いレベルを目指す選手への町ぐるみの支援などを通じて、地域への誇りや一体感を醸成するなど、スポーツによる交流・連携を進めます。

第３章　計画推進のための施策

Ⅰ　生活の中にスポーツがある暮らしの支援

■成果指標

【子どもの体力の向上】
・本町における児童生徒の体力テスト結果を分析し効果的に活用し体力の向上を図り、全ての学年及び種目について体力テスト結果が全国平均以上になることを目標とします。
【運動・スポーツ実施率、スポーツ団体加入率の向上】
・18 才以上の一般町民における、週 1 回以上の運動・スポーツ実施率を 40%にすることを目標とします。（現状 27.7%）
・18 才以上の一般町民における町内スポーツ団体加入率を 15%とすることを目標とします。（現在 6.6%）

１．幼児・子どものスポーツ活動の推進

（１）現状と課題

小中学生のアンケートでは、子どもたちもスポーツの効能や効果は認識していますが、学校以外で毎日運動・スポーツ・外遊びをする小学生は 18.7%でした。

小学生の 42.4%は、学校以外で運動・スポーツ・外遊びをする回数が週 2 日以下になっているほか、そのうち「月 1～2 回」と「ほとんどしない」と回答した子どもは 20.7%ありました。

中学生のアンケートで小学校に時に主に行っていた学校以外で行う運動・スポーツ・外遊びのうち外遊びは、鬼ごっこ:1 位 54.7%、木登り:13 位 11.3%(これ以外の昔からある遊びは極少数)ですが、現在の小学生は、鬼ごっこ:2 位 18.1%、木登り:18 位 1.0%(これ以外の昔からある外遊びは極少数)となっていて、ここ最近でも、昔からの外遊びが減少し、様々なスポーツを遊びとして行っています。

小学生が学校以外で運動・スポーツ・外遊びをする回数(%)

回答項目	小学生
1　毎日	18.7
2　週に 3 日以上	37.8
3　週に 2 日ぐらい	14.0
4　週に 1 日ぐらい	7.7
5　月に 1～2 回ぐらい	4.3
6　ほとんどしない	16.4

小学生が学校以外でよくする運動・スポーツ・外遊び(%)

上位回答	小学生
1　サッカー	22.4
2　鬼ごっこ	18.1
2　野球	18.1
4　バドミントン	12.4
5　縄跳び	11.7

小学生が学校以外で運動・スポーツ・外遊びをするよくする場所(%)

上位回答	小学生
1　家の庭	53.5
2　スポーツ少年団練習場	37.8

3　近所の公園・広場等	27.4
4　スポーツ教室等練習場	18.7
5　近くの山・川等	5.0

小学生が学校以外でスポーツや運動を行う場所は、「家の庭」53.5%、「スポーツ少年団」37.8%、「スポーツ教室・クラブ」18.7%となっていて、大人が外遊びの場所と考える「近所の公園・広場」は27.4%、「近くの山や川」は5.0%となっています。スポーツは、活動・習い事として一般的になっていますが、自然の中で外遊びをする子どもは少なくなっていて、遊びを通して多様な動きを身につける機会は減っています。

保護者アンケートでは、自分が子どもの頃と比べてスポーツや外遊びの環境が「悪くなった」「どちらかといえば悪くなった」との回答は54.3%で、その理由として、「子どもが自由に遊べる空地や生活道路が少なくなった」45.7%、「スポーツや外遊びができる時間が少なくなった」30.9%、「スポーツや遊びの仲間が少なくなった」27.7%でした。子どもたちが外遊びをしなくなった原因として、ゲーム機器の普及だけではなく、環境的な問題、学習塾・習い事の一般化や少子化なども影響していると考えられます。

また、運動能力に関しては、幼児期・小学生の時に、様々な運動や遊びをとおして、跳ぶ・走る・投げるなどの多様な動きを身につけることが望ましいと言われていますが、保育士・教員・スポーツ関係者と保護者へのアンケートでは、子どもに体を動かしたり、スポーツ等を勧めているかという質問に対し、保育士等では91.3%が行っているとの回答でしたが、保護者では62.8%となっています。さらに、多様な動きを経験させることが必要と考えている保護者は86.2%ありましたが、そのように心掛けている保護者は67.0%でした。

子どもたちの現状を把握した上で、保護者との連携による幼少期からの正しい生活習慣や外遊びの奨励、様々な遊び・スポーツを通した多様な動きの経験、指導者による適切な指導、複数のスポーツを体験できるような仕組み作りなどが必要です。

（２）施策の展開

①多様な動きを経験できる取組の充実

運動能力が偏らないよう、総合的な運動能力を身につけるためには、幼少時から様々な種目の運動・スポーツや外遊びを体験することが必要です。

保育所・小学校においては、基礎体力や運動能力を身につけさせることを意識して、外遊びの推奨や、体育の授業以外にも様々な運動・スポーツを体験させるよう努めるとともに、教職員では経験者がいない運動・スポーツなどは、スポーツ団体等の指導者と連携して体験させるなど、スポーツ団体等との連携を図ります。

また、保育所・学校以外でも子ども達が運動に親しむきっかけづくりとして、ス

マイリースポーツクラブ等で行っている子どもたちを対象にしたスポーツ教室などの充実支援や親子で参加できるスポーツ・レクリエーション大会開催など、身近で参加しやすいことに配慮した取組を充実します。

②生活調査及び体力測定の実施と利活用

運動・スポーツの指導を行うに当たり、子どもたちの体力・運動能力及び生活実態の状況を把握することは大切です。現在も小中学校では、実態把握のための取組を行っています。今後も、子どもたちの生活実態・運動能力や体力測定を継続的に行い、更に、その結果の分析を行いつつ、子ども達が運動習慣・生活習慣を正しく身につけることや、保護者の理解の向上など、有効活用が図れるようにします。

③指導者の育成等の支援

健康や運動・スポーツに関する知識技能を有する指導者のもとで、子どもたちが効果的かつ効率的に運動・スポーツを体験できるようにすることが必要です。スマイリースポーツクラブでは、希望する保育所・小学校で、子どもたちを対象にした運動・スポーツに関する知識・技能を有する指導者が出向き指導を行っています。

この活動を更に活発・充実させていくためには、スマイリースポーツクラブだけではなく、スポーツ少年団等の指導者も含めた指導者の育成支援やスポーツ団体等との連携体制構築に向けた支援を行います。

④子どもや保護者への啓発や情報提供の充実

子ども達の体力や運動能力の向上に当っては、幼少時から、運動や遊びの習慣を身につけることが何よりも大切です。また、運動とともに、食事・休養・睡眠などの正しい生活習慣も身につけるための取組が必要です。

日常的には、保護者の理解と協力が不可欠であることから、運動・スポーツの効能や正しい生活習慣を身につけることの必要性について、保育所、学校だけではなく、乳幼児健診等を担当する保健部門やスポーツクラブなどとも連携しつつ、様々な場面で啓発や情報提供などを行い、意識改革を図ります。

２．小中学生のスポーツ活動の推進

（１）現状と課題

近年の子どもたちの体力の低下が懸念される状況は、本町においても例外ではありません。本町の小中学生の体力テストの結果は、全国平均に至らない種目が増加しているばかりではなく、25 年度の結果は、23 年度を明らかに下回っています。

種目別・年度別全国平均以上学年数調査　（表中の○は学年平均が全国平均以上であることを示す。）

種目別	年度別	小中学生男子全国平均以上学年数										小中学生女子全国平均以上学年数									
		小学校						中学校			全国以上学年数小中男子計	小学校						中学校			全国以上学年数小中女子計
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	
握力	25年度		○		○						2		○					○			2
	23年度	○	○	○	○		○				5	○	○	○	○						4
上体起こし	25年度	○		○							2			○							1
	23年度		○	○	○						3	○		○	○	○					4
長座体前屈	25年度			○					○		2	○							○	○	3
	23年度	○					○				2	○			○	○					3
反復横跳び	25年度	○		○							2			○	○	○					3
	23年度			○	○		○		○		4			○	○	○	○		○		5
シャトルラン	25年度	○	○	○	○	○	○		○		7	○	○		○	○	○	○	○		7
	23年度	○	○	○	○	○	○	○		○	8	○	○	○	○	○	○		○		7
50m走	25年度		○	○	○	○		○	○	○	7		○		○		○	○	○	○	6
	23年度			○	○	○	○	○	○	○	7		○		○			○	○	○	5
立ち幅跳び	25年度								○		1							○	○		2
	23年度	○	○	○	○		○	○			6	○		○			○	○			4
ボール投げ	25年度	○									1	○			○						2
	23年度	○	○	○							3			○	○	○	○				4

■は過半数以上の学年が全国平均以上であることを示す。

また、得意な運動は、小学生よりも中学生の方が少なく、小学生の苦手な運動は、中学生はより苦手なっている傾向もみられます。継続的な体力づくりや様々な運動・スポーツ・外遊びを体験し、多様な動きを身につける取り組みが必要です。

得意な運動(%)		
種目	小学生	中学生
短距離走	34.8	34.6
長距離走	27.8	24.5
ボール投げ	24.7	14.5
幅跳び	16.7	7.5
高跳び	10.7	5.0
懸垂	4.0	2.5
縄跳び	28.8	24.5
ダンス	10.0	11.3
一輪車	21.1	15.7

苦手な運動(%)		
種目	小学生	中学生
短距離走	25.1	30.8
長距離走	43.5	44.0
ボール投げ	28.1	31.4
幅跳び	20.1	31.4
高跳び	32.1	40.9
懸垂	41.8	53.5
縄跳び	9.4	10.7
ダンス	35.5	27.0
一輪車	47.8	40.3

スポーツが好きな割合は、「好き」「どちらかと言えば好き」と回答した小学生は

85.6%、中学生はやや低くなりますが 78.6%と高い率です。嫌いな理由は、「体を動かすのが嫌い・苦手」が小学生 66.7%・中学生では 70.4%、「練習が厳しい・つらい」が小学生 21.2%・中学生 18.5%、「時間がない」が小学生 0%・中学生 11.1%でした。

子どもたちが運動に親しみ、心身の健康を保持するためには、運動が苦手な子どもでも楽しめるスポーツ・レクリエーション、個人の能力・技量を踏まえた指導、生活時間等に配慮した部活動、運動・スポーツと触れあう機会の創出などの検討が必要です。

中学校の部活動に関しては、自分の考え・目的と部活動の内容が合っているとする回答が 83.2%でした。合っていないと回答した生徒の理由では、「練習がもの足りない」30.0%、「レベルが低い」20.0%、「専門的指導者がいない」20.0%となっていて、専門的な指導者の配置や生徒のレベルを考慮した指導が必要です。

また、保育士・教員・スポーツ関係者へのアンケートでは、より適切な指導を行うための効果的な取組として、「専門的指導者の活用」57.4%、「技能・知識向上のための研修等」49.3%、「専任指導者の育成・配置」37.8%となっていて、専門的指導者による適切な指導が行える体制の整備が求められています。

小中学校での平成 23～24 年度に発生したスポーツ事故(保険申請があったもの)の原因は、回避不能(やむを得ないもの)49.6%、不注意 25.2%、技術的未熟 23.6%でした。不注意によるもののうち、周辺の状況に注意を払っていれば防ぐことができたと思われるものが多数ありました。

H23・24 年度小中学校のスポーツ事故に関する調べ(%)

原因別	割合	活動別	割合
回避不能	49.6	部活動	36.2
不注意	25.2	体育	29.1
未熟	23.6	休憩	25.2
その他	1.6	その他	9.4

事故が発生時の活動では、部活動 36.2%、体育授業29.1%、休憩中25.2%となっています。なお、部活動と体育授業の事故原因は、回避不能が、それぞれ 67.4%・45.9%と多数を占めていますが、休憩中は不注意・未熟の合計が 65.6%でした。休憩中においても継続的な注意喚起が必要です。

事故をなくすための効果的な取組(%)

上位項目	計	保育所	小学校	中学校	関係者	スポ少
1　体力や体調管理	61.5	79.3	56.7	69.0	42.9	50.0
2　正しい技術動作	53.4	44.8	50.7	51.7	85.7	60.0
3　準備運動	49.3	37.9	59.7	44.8	35.7	50.0
4　施設・用具点検	48.0	51.7	49.3	41.4	42.9	50.0
5　休憩をとる	30.4	27.6	28.4	34.5	35.7	30.0

保育士等関係者のアンケートで、スポーツ事故をなくすための取組は、1 位:体力・体調の管理 61.5%、2 位:正しい技術・動作を身につける 53.4%、3 位:準備運動 49.3%、4 位:施設・用具の点検整備 48.0%となっていました。指導者には、児童生徒の体調に気を配り、正しい動作や技術や入念な準備運動の指導などが求められていますので、知識・技能向上のための研修等への支援が必要です。

また、事故時の対応や処置には、知識・技能のある指導者等が常に現場にいるとは限りませんので、救急法(AED 等)講習会などを指導者以外の者を対象に行うことも必要です。

（２）施策の展開

①体育授業等の充実

学校での体育授業や食育・健康教育など、学校における基礎体力・運動能力の増進や正しい生活習慣を身につけるための授業の充実を図るため、教員の資質向上や体育授業等への外部専門家等の活用などについて支援します。

また、体育的な学校活動・イベントについても充実を図ります。

②適切な運動・正しい生活習慣の定着

発達段階に応じたスポーツ活動のあり方などについて、「子どものスポーツ活動ガイドライン」（鳥取県教委作成）に基づき啓発します。また、食育の推進や正しい生活習慣などが身につけられるように、学校や各種団体等を通じ、子どもや保護者に対して指導・啓発を行います。

③運動部活動等の充実

運動部活動の一層の活発化を図るため、専門的知識・技能を有する外部指導者の一層の活用やスポーツ団体と部活動及び学校との連携による指導体制の整備などを推進します。

また、部活動における生徒のニーズや、少人数化への対応として町内 2 中学校の合同練習等について検討します。

④複数スポーツ活動の奨励

スポーツ少年団や部活動を行っている児童生徒は、同じ競技種目のみを続けていることが多いことから、多種目のスポーツに親しむために、水泳など民間スポーツクラブで行っているスポーツ活動と部活動の両方に取り組める仕組みや複数の部活動を体験できる制度などを調査・検討します。

⑤部活動等のあり方や参加形態の多様化の検討

部活動は学校教育の一環として、生徒の自主性や協調性、責任感や連帯感などを育成する等、様々な意義や効果をもたらすものであり、学校全体として部活動運営の方針等を共有することが必要です。

また、原則全員が部活動に入部している本町では、運動が苦手な生徒や厳しい練習にはついていけない生徒、放課後に民間のスポーツクラブに通っている生徒など、様々な課題について配慮が必要です。

今後の部活動の運営については、地域の人々の協力や生徒のニーズに沿った部活動の運営・指導体制の在り方を検討します。

⑥子どもたちの実態を踏まえた活動計画の作成

子どもたちの状況やニーズを考慮して、適切な目標や運営方針を設定することが必要です。その際、学校での教育活動を第一に考え、年間の見通しを持った活動になることや、小学生では少なくとも週 4 日、中学生では週 2 日程度の休養日を設定するなど、適切な活動となるようにすることが必要です。

⑦町内小中学校スポーツ交流

異なる学校の子どもたちが一堂に会し、スポーツを通じてより広い人間関係を構築することや、お互いに刺激し合い、楽しく有意義な時間を共有することでスポーツに関する意欲向上につながるよう、体育行事やスナッグゴルフ等を活用したスポーツによる学校交流を充実します。

⑧スポーツ関係団体・指導者と小中学校との連携支援

スポーツ少年団やスポーツ団体の指導者、部活動外部指導者及び学校関係者等など、児童・生徒のスポーツの指導に携わる者が連携することで、子どもたちのスポーツに関する情報交換・指導方法の確認による効果的な指導や将来的な見通しをもった指導が可能となります。スポーツ指導者等連絡会(仮称)設置など連携体制の整備に向けた支援を行います。

⑨スポーツボランティア（補助者）の活用検討

中学校で新たに必修科目になった武道(本町では柔道を選択)・ダンスや教員が経験のないスポーツ種目などに対応するためには、指導体制の充実が必要です。そのため、スポーツ経験者や退職教員などによるスポーツの指導・補助を行うスポーツボランティアの導入について検討します。

⑩事故防止

子どもたちが安全に運動・スポーツに取り組めるよう、教員やスポーツ指導者へのスポーツ事故等に関する研修等の参加を支援します。

また、定期的な救急法(AED 等)の講習会の開催や器具・道具の点検の徹底などを行い事故防止に努めます。

３．ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

（１）現状と課題

一般住民アンケートで、現在のところ「健康」「どちらかといえば健康」と答えた人は 78.6%でしたが、「体力に自信がある」「どちらかといえば自身がある」と回答した人は 43.2%で、運動不足を「大いに感じる」「ある程度感じる」との回答は、82.7%でした。現在は健康だが、今後の健康の維持増進に関しては、不安を感じている状況がうかがえます。

さらに、心身の健康の維持増進に運動・スポーツが「必要」「どちらかと言えば必要」とする回答は、90.4%で、運動・スポーツが好きな割合は 68.6%でしたが、運動・スポーツの年間回数に関する質問で「3 ケ月に 1～2 日」「年 1～3 日」「ほとんどしていない」と答えた月 1 回未満の割合は、67.2%でした。

この 1 年間で運動やスポーツ活動を何回ぐらいしていますか(%)							
回答項目	計	18～29	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代
週 3 日以上	10.7	11.1	5.3	17.1	8.9	13.3	10.4
週 1～2 日程度	17.0	22.2	26.3	7.3	11.1	16.7	18.8
月 1～3 日程度	14.4	22.2	14.0	17.1	11.1	10.0	18.8
3ヶ月 1～2 日程度	5.9	0.0	7.0	14.6	6.7	1.7	4.2
年 1～3 日程度	7.0	11.1	8.8	9.8	6.7	5.0	4.2
わからない・不明	5.2	5.6	1.8	0.0	8.9	1.7	14.6
ほとんどしていない	39.9	27.8	36.8	34.1	46.7	51.7	29.2

運動の必要性を理解し、運動不足を感じていますが、運動・スポーツを日常生活に取り入れることができていないようです。運動・スポーツをしていない理由として多かったのは、1 位:仕事や家事で疲れている 52.8%、2 位:自由な時間がとれない 42.6%、3 位:運動が苦手・好きではない 25.9%、4 位:きっかけがない 24.1%となっています。

また、一般住民のアンケートで、運動をしている場所では、1 位:自分の家・庭 23.6%、2 位:町内の公共スポーツ施設 22.5%、3 位:近所の公園・広場等 18.5%でした。住民みんなが心身の健康維持増進に心がけるためには、運動が苦手な人や忙しい人でも家庭で手軽にできる運動・スポーツの紹介・普及が望まれます。

新たにやってみたいスポーツで 10%を超えた種目は、ウォーキング 20.7%、水泳 12.5%の 2 種目のみで、やってみたいスポーツが分散していました。

新たにやってみたい運動やスポーツ(%)							
上位回答	計	18～29	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代
1　ウォーキング	20.7	5.6	12.3	12.2	24.4	23.3	37.5
2　なし	18.5	16.7	12.3	14.6	15.6	28.3	20.8
3　水泳	12.5	5.6	17.5	22.0	8.9	13.3	4.2
4　バドミントン	8.5	11.1	17.5	19.5	4.4	1.7	0.0
4　サイクリング	8.5	11.1	10.5	14.6	15.6	0.0	4.2

誰と運動・スポーツを行っているかという質問では、1 位:自分一人 33.6%、2 位:

家族 23.6%、3 位:仲の良い友達 14.4%でした。スポーツ教室等の開催に関して、世代、性別、参加者の参加形態などニーズや利用状況を十分に検討した上で、より利用しやすいスポーツ教室等になるよう見直しが必要です。

一般住民・関係者のアンケートで、運動・スポーツの振興で最も力を入れるべきことという質問では、1 位:指導者・スタッフの充実 38.2%、2 位:子どもたちの健康づくり 32.2%、3 位:スポーツ教室等を増やし内容を充実 27.0%となっていて、町のスポーツ施設について望むことという質問では、1 位:初心者向けスポーツ教室開催 36.2%、2 位:指導者の配置 20.3%、3 位:用具・器具の充実 16.6%の順でした。ソフト面での要望が多く、その中でも指導者による適切な指導が受けられる体制の整備が望まれています。

また、住民誰もが健康の維持増進のために運動・スポーツに取り組めるよう、障がい者と健常者が一緒にできて楽しめる運動・スポーツ、障がい者のためのスポーツ種目の調査・研究や障がい者スポーツの支援の検討なども望まれます。

このほか、運動・スポーツの普及・振興のための広報・啓発・PR やスポーツ教室等に関する情報提供も十分とは言えない状況のため、情報提供体制の充実が必要ですし、安全にスポーツに取り組むためには、指導者の適切な指導、器具・用具の点検、万一の際の措置・処理に関する知識・技能の普及・啓発など、スポーツによる事故の防止等に関する取り組みも充実する必要があります。

（２）施策の展開

①スポーツ教室等の充実

スポーツに親しむためのきっかけづくりとして、手軽にできる体力測定会やウォーキング大会、初心者向けのスポーツ教室、親子で参加できるスポーツ教室などや個人の体力・技量に合わせた指導など、年代や住民ニーズを踏まえ、実施方法・開催場所・時間などに考慮した参加しやすい教室等の開催について一層の充実を図るとともに、スポーツ関係団体や自治会などと協力して行います。

②手軽にできるスポーツ・レクリエーション等の検討

スポーツの苦手な人や時間があまりとれない人などが、手軽に取り組めるスポーツ・レクリエーションや、子どもから高齢者まで一緒に楽しめるスポーツ・レクリエーション等について、様々なニーズやライフスタイルに対応できるよう検討します。

③職場における運動の実施の推奨

広く町内の民間事業者等に働きかけ、職場における手軽な運動（ラジオ体操等）の実施を推奨します。

④指導者の発掘・養成・連携と活用支援

スポーツや運動に関し、適切な指導が行える指導者の確保が必要ですが、町内における指導者の実態が十分に把握できていないことや指導者に関する情報が共有されていないことから、指導者の発掘・養成に関する支援を行うとともに、指導者間の連携体制確立などの支援を行います。

また、指導者に関する情報の一元化を図り、提供できる体制を整備することで、指導者の確保と活用に寄与します。

⑤障がい者スポーツ活動支援の検討

障がい者の方がスポーツや健康づくりに取り組めて、健康で豊かな生活が送られるよう、福祉部門と連携して日常的な運動・スポーツ種目や指導方法などについて調査・研究します。

⑥スポーツ・健康に関する啓発・情報提供の充実

スポーツや健康に関する事業・イベント・大会・各種教室や正しい運動の仕方・健康に関する情報などを保健福祉部門と連携を図りながら総合的に収集・管理し、広報・ホームページ・CATV など様々な媒体で提供できるようにします。

⑦事故防止

安全にスポーツを楽しむためには、無理なく適切な運動指導・用具器具等の点検や医科学的な知識に基づき事故の際に適切な対応できることなどが必要です。そのため、事故に関する研修参加支援・用具器具の定期点検や救急法(AED 等)の講習会などを行います。

Ⅱ　いつでも気軽にスポーツができる環境の整備

■成果指標

【町内スポーツ団体の認知度向上】
一般町民における、町内スポーツ団体（町体協、スマイリースポーツクラブ、町スポーツ推進委員協議会）の認知率（活動内容を知っている）を※25%とすることを目標とします。
（※現在 12.6%）　　※印：上記 3 団体の認知率の平均値

１．スポーツ団体等の活動支援

（１）現状と課題

住民の健康や体力の維持増進のためには、指導者の充実や指導者の適切な指導が欠かせません。保育士・教員・スポーツ関係者・一般住民へのアンケートでは、運動・スポーツの普及・振興に最も必要なものが、「指導者・スタッフの充実」38.2%となっていました。運動・スポーツでの事故をなくすための効果的な取組に関するアンケート回答の上位は、1 位:体力や体調の管理 61.5%、2 位:正しい技術・動作を身につける 53.4%、3 位:準備運動 49.3%でした。

また、一般住民・保育士等関係者へのアンケートの町のスポーツ施設に望むことでは、1 位:初心者向けスポーツ教室の開催 35.1%、2 位:指導者の配置 28.6%で、ソフト面での充実に関する回答が上位になっています。

町のスポーツ施設に望むこと(%)			
上位項目	計	関係者	一般
1　初心者向けスポーツ教室	35.1	33.1	36.2
2　指導者の配置	28.6	43.9	20.3
3　用具・器具の充実	27.4	47.3	16.6
4　利用時間の拡大	17.4	23.0	14.4
5　施設の増改築	16.0	27.7	9.6

健康の維持増進、スポーツの普及・振興や事故防止の面からも、指導者による適切な指導が必要とされていますが、住民の日常的な運動・スポーツのサポート等を行うには、行政だけの取組では限界があります。指導者等の育成、スポーツ団体のスポーツ教室等活動の活性化、スポーツ団体との連携や各団体の指導者に関する情報の収集･提供などが必要です。

また、町全体でスポーツ振興に取り組むためには、町内の関係団体がそれぞれの立場で目標達成に向けて協力することが必要です。

しかしながら、教育委員会が行う社会体育・健康対策課が行う健康教室・スマイリースポーツクラブの事業などの役割分担、スポーツ推進委員と住民・スポーツ団体・スポーツ事業との関係や町体育協会とスマイリースポーツクラブの位置付けなど不明確な部分があり、全体として一致協力できる体制には至っていません。それぞれの役割や分担を明確にしつつ、連携に向けた取組が必要です。

（２）施策の展開

①スポーツ団体等の活性化支援

スポーツの普及・振興には、住民のスポーツ活動の受け皿となる町内のスポーツ団体が、重要な役割を担っています。そのため、自主的・主体的・継続的に活動しているスポーツ団体に対し支援を行い、個々のスポーツ団体の活性化を図りつつ、相互に連携・協力できる体制を整え、地域スポーツの活性化や運動・スポーツ人口の拡大等につなげることが必要です。

②スポーツ団体等の指導者・スタッフの育成支援

スポーツの推進及び競技力の向上やレクリエーションを普及していく上で、指導者・スタッフは必要不可欠であることや、町民の多様化するスポーツニーズに応えるためにも、関係団体・機関と連携を図りながら、研修会や講習会を開催するなど指導者・スタッフの育成支援に努めます。

③スポーツ団体等の連携支援

各種スポーツ団体の役割や分担を明確にして、各団体が、より活性化するとともに、住民のスポーツ活動の受け皿となって、対象者やスポーツ教室の開催形態の多様化などが図られ、全体としてスポーツ活動の活性化につながるよう、連携や協力体制の確立を支援します。

④スマイリースポーツクラブとスポーツ団体等の連携支援

各種スポーツ団体とスマイリースポーツクラブの位置付けを明確にしたうえで、スマイリースポーツクラブが行う地域スポーツの普及・振興という公益的な活動に関して、連携・協力体制が充実できるよう支援を行います。

⑤スポーツ団体等と行政の連携強化

社会体育に関する事業は、スマイリースポーツクラブや町体育協会の活動・協力よるところが大きく、特に各種町民スポーツ大会は、町体育協会・町・スマイリースポーツクラブの相互協力で行っている現状にあります。

また、町の健康事業の一部をスマイリースポーツクラブが受託して行っていることもあり、今後、より活発なスポーツ活動や、健康づくり事業を推進するためには、連携体制をより強化し、協働による事業実施ができるようにします。

⑥スポーツ推進委員活動の支援

スポーツ推進委員は、従来の体育指導員のようなスポーツの実技指導だけではなく、現状ではスマイリースポーツクラブの運営に大きく携わるなど、スポーツ推進のための事業の実施に係る連絡調整等の活動も求められています。そのため、必要な技能・能力の向上に資する研修等への参加を支援するとともに、スポーツ推進委員の活動の場の拡充を図り、より住民ニーズに対応したスポーツ事業が展開できるよう努めます。

⑦行政関係部門の連携の強化・充実

スポーツ振興と健康づくりは密接な関係にありますが、これまで社会体育事業と健康づくり事業の連携については、福祉・高齢者など個別の計画毎の連携になっています。そのため、今後のスポーツ振興においては、全ての住民のスポーツ・運動の活発化と健康づくりにおいて協力ができるよう、関係部門間の連携体制の一層の充実を図ります。

２．公共体育施設等の充実

（１）現状と課題

本町の社会体育施設は充実していますが、昭和 56 年度以前の設計による施設については、耐震診断が必要です。耐震診断が必要ではない施設についても、老朽化に伴う施設・設備の修繕・改修や、障がい者に配慮したバリアフリー化などについて、より安心・安全で利用しやすい施設となるよう検討する必要があります。

併せて、改修の際には、避難所に指定されている施設や今後指定が見込まれる施設については、防災機能や避難者受け入れ対応のための設備等も検討する必要があります。

また、今後、学校統合が実施された場合には、社会体育施設としての利用等についても、地域住民の意向を踏まえつつ検討する必要があります。

体育施設の運営管理に関しては、現在は、総合スポーツ公園が中心となり直営で管理運営していますが、施設が広範囲に分散していることや利用形態が地域に密着しているもの、町内外の不特定多数が利用しているものなど施設毎に性格が異なっているため、効果的・効率的な管理運営を行うためには、住民ニーズや利用状況等の把握が必要です。その上で、施設ごとに、最も適した管理運営形態を検討する必要があります。

（２）施策の展開

①体育施設の改修等の推進

本町の体育施設は充実していますが、施設によっては老朽化が進んでいるものがあります。耐震診断や必要に応じて耐震補強、障がい者の方が利用しやすくするためのバリアフリー化や避難所指定施設の防災関連設備等の改修を行い、安全で利用しやすい施設となるよう、財政面に配慮した計画的な整備を行います。

②空き公共施設の活用の検討

学校統合が実施された場合には、学校体育施設を社会体育施設として使用することが想定されますので、住民の意向を踏まえ、必要に応じて改修等を行います。

また、空き公共施設を利用した、スポーツ教室等の開催など、より身近な場所でスポーツ活動ができるよう、利用方法や実施方法等について検討します。

③効果的かつ効率的な施設運営体制の検討

本町の体育施設は充実しています。今後は、学校統合が進めば、各地区の学校体育施設が社会体育施設へと活用形態が変わることが想定され、社会体育施設の増加によって、従来の社会体育施設の利用者や利用時間等に変化が生ずると思われます。併せて、住民が利用しやすい運営を行うためには、鍵の管理や日常的な維持管理などについて、現状どおりの体制では対応が困難になることも考えられます。そのため、従来の体育施設と新たに増加する体育施設の利用時間・利用者の状況や利用形態などを把握し、より住民が利用しやすく、かつ効率的な管理・運営に努めます。

また、各体育施設の状況を調査のうえ、これまでどおりの教育委員会部局による直営管理、自治会や住民団体への一部業務委託や民間団体による指定管理など、効果的かつ効率的な管理運営体制について検討します。

Ⅲ　スポーツでつながり広がる交流・連携の推進

■成果指標

【大会参加率、スポーツボランティア参加希望率の向上】

・町体協主催のスポーツ大会の参加率を全体平均で 5%とすることを目標とします。（現在 2.1%）

・スポーツボランティア参加希望率を 10%とすることを目標とします。（現在 5.5%）

１．スポーツ交流の充実・支援

（１）現状と課題

一般住民へのアンケートでは、住民が最も参加しているスポーツ大会等は、各公民館単位で行われている町民運動会への参加が、11 事業中で最も多く 35.1%で、全ての年代で高い割合で参加しています。健康教室(まめまめクラブ) の参加率は全体では 11.8%ですが、60 代 10.0%、70 代以上では 41.7%と高い参加率になっています。

この１年間に参加した町や町体育協会の主催するスポーツ行事(%)							
上位回答	計	18～29	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代
1　町民運動会	35.1	16.7	36.8	39.0	40.0	30.0	37.5
2　健康教室(まめまめ)	11.8	0.0	1.8	4.9	6.7	10.0	41.7
3　バドミントン大会	4.8	11.1	15.8	2.4	2.2	0.0	0.0
4　ウォーキング大会	4.1	0.0	0.0	2.4	6.7	5.0	8.3
5　バレーボール大会	3.3	0.0	3.5	12.2	4.4	0.0	0.0
6　野球大会	3.0	11.1	1.8	9.8	2.2	0.0	0.0

町のスポーツ大会への自由意見は 29 件ありましたが、運動会の競技種目に関するものと、これまでにないスポーツ種目の提案に関するものが 4 件ずつありました。それ以外では、参加したくないのに参加しなければならない状況があるという意見が 2 件、スポーツ大会の地域・地区の分離や統合に関する意見が 2 件、その他大会関係で 6 件の意見がありました。スポーツ大会に関するものではありませんでしたが、水泳教室・プールに関する意見が 4 件、その他 7 件の意見がありました。

主にやっている運動・スポーツに関する質問では、ウォーキングが 40.1%と高くなっていますが、その他の種目は全て 10%未満となっていて、スポーツが多様化していることが分かります。

この１年間で運動・スポーツを行った(回数は無関係)と回答した人の行った種目(%)							
上位回答	計	18～29	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代
1　ウォーキング	40.1	23.1	33.3	25.9	43.5	50.0	56.7
2　ゴルフ	8.9	0.0	2.8	7.4	21.7	17.9	3.3
3　バドミントン	8.9	23.1	13.9	14.8	8.7	0.0	0.0
4　グラウンドゴルフ	8.9	7.7	0.0	0.0	0.0	10.7	33.3
5　登山	6.4	0.0	13.9	11.1	0.0	7.1	0.0
6　体操	6.4	0.0	2.8	7.4	8.7	3.6	13.3

住民のスポーツに関するニーズが多様化している現状では、より正確なニーズの把握が必要です。実態を把握したうえで、見直しを行い、参加者の増に向けた大会等の開催を検討することが必要です。

なお、見直しに当っては、健常者と障がい者が共に楽しめる大会や障がい者向けのスポーツの普及や大会開催等についても検討が望まれます。

スポーツ大会等の運営には、ボランティアの協力が欠かせないようになってきています。アンケートでは、大会のスタッフやボランティアとして「参加したい」「ときどきなら参加してもよい」とする回答が 39.1%ありました。より多くの人にスポーツ大会等に関わっていただくことが、より活発な大会の開催やスポーツを通した社会参加につながります。そのため、ボランティアの確保、ボランティアの奨励や支援するための制度の検討が必要です。

町や体育協会主催の大会以外にも、地域や集落によっては、自主的な取組で、広範囲の人が参加できるスポーツ・レクリエーション大会を開催しているところがあります。広域的なスポーツの振興やスポーツを通じた住民交流に寄与するなど、住民自らの企画・主催・運営による大会等への支援について検討が必要です。

このほか、総合スポーツ公園など観光施設に近い体育施設では、住民の体育利用というだけではなく、町外者の利用も多いことから、町民とのスポーツ交流や観光客等の利用促進などによる、施設の有効活用やスポーツによる町おこしも視野に入れた取り組みも望まれます。

（２）施策の展開

①スポーツ大会等への住民ニーズの反映等による充実

町のスポーツ大会では、参加者の減少や固定化の傾向があります。より多くの方が参加し､住民誰もが楽しめるスポーツ･レクリエーション大会にするために、住民ニーズを調査のうえ見直しを行います。

②スポーツボランティア制度（大会スタッフ等）の検討

健康や生きがいとしてスポーツに取り組むこと以外にも、応援や大会の運営に参加することも、スポーツを楽しむ方法の１つであり、スポーツの振興やスポーツを通じた社会参加にもつながるものです。

現在の各種大会の運営についても、ボランティアの協力や住民参画が欠かせないものとなっています。より幅広い活動の在り方の検討やボランティアとして参加される方について、ポイント制度の検討などスポーツボランティア活動を奨励・支援する制度を検討します。

③住民企画運営スポーツ大会等への支援

住民が参加するスポーツ大会は町や体育協会が主催するものだけではなく、自治会や住民有志などで企画運営され、町内外の住民交流やスポーツ振興に大きく寄与しているものもあります。

こうした住民自らが企画・主催・運営する大会で、公共的な目的を持つものについて、支援の在り方を検討します。

④障がい者が参加できるスポーツ大会等の検討

障がい者が自主的かつ積極的にスポーツを行い、スポーツを楽しみ、健康維持や体力増強ができるよう、障がい者が気軽に参加できるスポーツ大会の在り方や健常者と障がい者が共に楽しめるスポーツ大会やリクリエーションなどについて、関係部門が連携し、調査・研究します。

⑤スポーツ交流等による町おこしの検討

スポーツによる町おこし・観光客と住民の交流や体育施設の平日の昼の利用促進及び使用料収入の増などを目的として、町内観光施設の近くにある総合スポーツ公園などの社会体育施設について、観光客等が手軽に利用できるスポーツ体験メニューや飛び入りでも参加できるスポーツ・レクリエーション大会などスポーツツーリズムについて検討します。

２．競技スポーツの支援

（１）現状と課題

競技スポーツの推進については、各種競技団体が加盟している町体育協会やスマイリースポーツクラブ内のジュニアクラブ（スポーツ少年団他）などへの活動支援の他、全国大会等に出場する選手への支援、各種スポーツイベントの開催や体育施設の優先使用など競技力の向上や競技人口拡大のための事業を行っています。

しかしながら、優秀な選手をより高いレベルに育成するという点では、現在の支援策は充分ではありません。全国で通用する選手の育成には、選手を指導する優れた指導者・スタッフは欠かせません。そのため、指導者のレベルアップ研修参加等への支援が必要です。

また、レベルアップのための強化練習（遠征）等の経費については、現在は支援制度がないため、選手の負担になっています。全国レベル等優秀な選手の育成のためには、練習面での経費に係る支援等についての検討を行います。また、2020 年に開催される「東京オリンピック・パラリンピック」に本町の出身者が出場するという夢や目標に向かっていけるように応援します。

本町のスポーツ表彰（顕彰制度）については、「伯耆町体育協会表彰規定」及び「町教育委員会表彰規定」に基づき、町内小中学校や各種競技団体を通じて推薦された町民のスポーツ活動に対して表彰を行い、功績を褒め称えるとともに、スポーツに対する意識の向上を図っています。

しかしながら、現在の情報収集の方法では、町内在住・出身の高校生や大学生などの表彰に該当する選手の把握が困難であるため、推薦対象が限定されていることや、表彰が選手（団体）の意欲向上に十分にはつながっていない状況です。今後は、選手の励みや意欲向上につながるように、新たな顕彰事業、スポーツ表彰の一本化による明確化など顕彰制度の見直しが必要です。また、大会等の運営で協力していただくボランティアについては、現在はその労苦に報いる制度がありません。貢献のあったボランティアへの顕彰制度も、スポーツ振興の観点から検討する必要があります。

本町にも県代表や全国レベルで活躍するスポーツ選手がいますが、住民に十分には認知されていません。郷土の選手を誇りに思い、町全体で選手を応援するよう競技スポーツに関する広報の充実も必要です。

（２）施策の展開

①指導者の育成支援

選手の育成には、優れた指導者が必要であることは言うまでもありません。部活動を担当する教員・町体育団体関係者などの指導者などが、技能向上のために

参加する研修等に関し支援を拡充します。

②優秀な指導者を確保するための制度の検討

優秀な指導者(トップアスリート等)を教育委員会のスポーツ指導員やスポーツクラブ等の指導者として確保(雇用)し、強化指導体制の充実支援や活動が継続してできる環境整備について検討します。

③スポーツ優秀選手支援制度の検討

全国レベルの町内スポーツ選手に対する町の支援は、大会参加旅費の補助のみです。選手の一層のレベル向上につながる支援として、高レベルへの大会参加費、遠征費、合宿参加費等の一部補助を検討します。

④スポーツ優秀選手・ボランティア等への顕彰制度の検討

スポーツにおいて優秀な成績を収めた選手・団体やスポーツボランティアなどスポーツの振興等に貢献のあった人に対する顕彰について、より一層の励みとなるよう表彰制度の一本化や棲み分け、レベルの高い成績に対する新たな表彰など、新たな顕彰制度を検討します。

⑤町のスポーツの検討

本町の規模で、より高いレベルの選手を育成するめたには、競技種目を絞り、競技人口を増やす中で、より能力の高い人材を発掘できるよう底辺の拡大が必要です。

また、町のスポーツとして、住民誰もができる・楽しめるスポーツを奨励することで、住民交流の促進、スポーツに親しむことや健康の維持増進にも寄与することが期待されることから、町のスポーツの制定について検討します。

⑥競技スポーツ等の広報の充実

町全体で町に関わりのあるスポーツ選手を応援することで、選手の意欲向上、住民の誇りや競技スポーツへの興味の向上につながるよう、庁舎や地区公民館・広報・CATV・ホームページなどを活用した積極的な情報提供に努めます。

計画の体系

基本目標	
豊かな心が育つまち	**健康で安心して暮らせるまち**
子ども、お年寄り、障がいのある人も誰もが、お互いに助け合い尊重しながら和気あいあいとスポーツを楽しんで、人の輪がどんどん広がり、町の人みんながひとつになれる、そんな豊かな心が育つまち	住民みんなが、子どもの頃からお年寄りになるまでずっとスポーツに親しみ、心もからだも健康で、町を歩けば出会う人みなんが笑顔であいさつを交わす、そんな健康で安心して暮らせるまち

基本方針		
生活の中にスポーツがある暮らしの支援	**いつでも気軽にスポーツができる環境の整備**	**スポーツでつながり広がる交流・連携の推進**
住民誰もが、スポーツや運動に親しみ・楽しむことができるよう、多様なスポーツとの出会いの場の提供や一人ひとりに応じたスポーツの指導体制の充実など、スポーツを生活の中で身近なものにします。	スポーツや運動がしたくなった時に気軽にできるよう、スポーツクラブ等の活動・連携の支援や体育施設の充実など、日常的・継続的にスポーツ活動ができる環境を整備します。	スポーツによる交流、スポーツ大会への住民参画や、より高いレベルを目指す選手への町ぐるみの支援などを通じて、地域への誇りや住民の一体感を醸成するなど、スポーツによる交流・連携を進めます。

施策	施策の展開
幼児・子どものスポーツ活動の推進	多様な動きを経験できる取組の充実
	生活調査及び体力測定の実施と利活用
	指導者の育成等の支援
	子どもや保護者への啓発や情報提供の充実
小中学生のスポーツ活動の推進	体育授業等の充実
	運動部活動等の充実
	複数スポーツ活動の奨励
	部活動等のあり方や参加形態の多様化の検討
	子ども達の実態を踏まえた活動計画の作成
	町内小中学校スポーツ交流
	スポーツ関係団体・指導者と小中学校との連携支援
	スポーツボランティア（補助者）の活用検討
	事故防止
ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	スポーツ教室等の充実
	手軽にできるスポーツ・レクリエーション等の検討
	指導者の発掘・養成・連携と活用支援
	障がい者スポーツ活動支援の検討
	スポーツ・健康に関する啓発・情報提供の充実
	事故防止

施策	施策の展開
スポーツ団体等の活動支援	スポーツ団体等の活性化支援
	スポーツ団体等の指導者・スタッフの育成支援
	スポーツ団体等の連携支援
	スマイリースポーツクラブとスポーツ団体等の連携支援
	スポーツ団体等と行政の連携強化
	スポーツ推進委員活動の支援
	行政関係部門の連携の強化・充実
公共体育施設等の充実	体育施設の改修等の推進
	空き公共施設の活用検討
	効果的かつ効率的な施設運営体制の検討

施策	施策の展開
スポーツ交流の充実・支援	スポーツ大会等への住民ニーズの反映等による充実
	スポーツボランティア制度（大会スタッフ等）の検討
	住民企画運営スポーツ大会等への支援
	障がい者が参加できるスポーツ大会等の検討
	スポーツ交流等による町おこしの検討
競技スポーツの支援	指導者の育成支援
	優秀な指導者を確保するための制度の検討
	スポーツ優秀選手支援制度の検討
	スポーツ優秀選手・ボランティア等への顕彰制度の検討
	町のスポーツの検討
	競技スポーツ等の広報の充実

伯耆町スポーツ推進審議会

■平成 24 年度

役職	氏名	所属・役職等	区分
会長	松原　茂春	伯耆町スポーツ推進委員協議会会長	ｽﾎﾟｰﾂ団体
副会長	井田　博之	伯耆町中学校代表校長	学校
委員	油野　利博	鳥取県体育協会会長	一般
委員	金田　健司	伯耆町小学校代表校長	学校
委員	乾　　裕	伯耆町PTA協議会会長	学校
委員	俵　　圭一	伯耆町体育協会理事長	ｽﾎﾟｰﾂ団体
委員	高塚　勲男	ほうきスマイリースポーツクラブ理事長	ｽﾎﾟｰﾂ団体
委員	中曽　脩至	伯耆町社会福祉協議会会長	福祉
委員	小林　寿子	伯耆町役場健康対策課長	行政
委員	森安　和美	伯耆町内保育園長代表	行政

■平成 25 年度

役職	氏名	所属・役職等	区分
会長	松原　茂春	伯耆町スポーツ推進委員協議会会長	ｽﾎﾟｰﾂ団体
副会長	箕浦　昭彦	伯耆町中学校代表校長	学校
委員	油野　利博	鳥取県体育協会会長	一般
委員	金田　健司	伯耆町小学校代表校長	学校
委員	勝部　弘志	伯耆町PTA協議会会長	学校
委員	俵　　圭一	伯耆町体育協会副会長（前理事長）	ｽﾎﾟｰﾂ団体
委員	高塚　勲男	ほうきスマイリースポーツクラブ理事長	ｽﾎﾟｰﾂ団体
委員	中曽　脩至	伯耆町社会福祉協議会前会長	福祉
委員	上田　博文	伯耆町役場健康対策課長	行政
委員	清水さとみ	伯耆町内保育園長代表	行政